

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター 香川こだま学園		
○保護者評価実施期間	令和7年1月14日 ～ 令和7年1月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○従業者評価実施期間	令和7年1月14日 ～ 令和7年1月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○訪問先施設評価実施期間	令和7年1月14日 ～ 令和7年1月31日		
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	10施設	(回答数) 10施設
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年5月23日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取り組み等
1	子どもの発達段階や特性を把握した上で訪問支援を行っている。	経験豊かな訪問支援員と対象児の個別担当が訪問支援を行い、子どもの生活や発達状況に関する情報を提供することで、訪問先施設職員が子どものイメージを描き易くなり有効な助言につながっている。	今後も多職種が連携し、子どもの実態に即した助言を行っていききたい。
2	訪問先施設や保護者と情報共有を十分に行うとともに具体的な助言を行っている。	訪問後の振り返りを職員間で共有し、また保護者との面談やモニタリングを確実に実施している。	訪問先職員や保護者が前向きに保育、養育ができるように研鑽を積みたい。
3	当施設が小さな県のほぼ中心部に位置するという地理上のメリットから、どの訪問先へも1時間程度で向かうことができる。	どの施設へも定期的に確実に訪問できている。	今後も一人ひとりの児のニーズに合わせた形で訪問支援を行っていききたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員個々の支援力に差がある。	療育の経験年数に差がある。	経験の浅い職員が訪問支援に同行する機会を増やしたり、訪問支援についての職員研修を行ったりして人材育成に努めたい。
2			
3			